

正解者はたったの3名とは！

ナチュラルシード見学会～種から学ぼう！肥料もいらない自然農法～ の報告

平成24年2月21日（火）に、成田市三里塚光が丘にある有) ナチュラルシードネットワークにて表題の見学会を行いました。この見学会は、千葉県県民交流・文化課が担当している企業とNPOによるパートナーシップ事業として、有) ナチュラルシードネットワークと環境パートナーシップちば（以下、環パと略称）が協働する形で実現したものです。

平成24年1月から環パが主体で参加者募集を行いました。これまでの環パのイベントでは参加者不足に悩むことが多かったのですが、今回は市民の関心が特に高いことがうかがわれ、結局予定を超えて30名（内、スタッフ10名）が集まる盛会となりました。

まず、有) ナチュラルシードネットワークの石井吉彦代表により、氏が始められたナチュラルシードとその無肥料農法とは何かについて、まず種^{たね}の危ない現状についての話から始まりました。



日本の農家は100%に近く、外国などのメジャーな種苗会社が販売する種を使っています。この種は、この会社が野菜の流通業者が最大の利益を上げることを目的に野菜の形状や品質を設計し、しかも二世目^{二代目}の種は使えないようにしたもので、言わばこの会社の経済利益のために、生産者の農法を始めとし消費者の健康や嗜好が管理されている現状が語られました。

種を扱う商社で働いていた氏は、このような現状を改善するために在来種を用いた無肥料農法に取り組み始めました。ある時、アトピーに悩む人がこの方法で収穫した野菜を食べたところ、劇的に快方に向かったことがあり、それを機に会社を辞め、この農法や野菜の普及のための全国展開の仕組みを作るために1999年5月に有) ナチュラルシードネットワークを設立しました。



ホームページサイト
<http://www.natural-seed.net/>

石井講師のお母さん（イメージキャラクター）

このようなお話の後に、無肥料野菜と有機肥料野菜の味の違いを実感するために、人参とネギについて両者の味見をしてどちらの野菜かを当てるゲームをしました。



その結果、驚くことに正解者は約30名の内の3名でした。これは、私たちの味覚がいかにか他者に支配されてしまっているかの証明だと思います。

昼食後、圃場^{ほらば}に移動し、土壌と野菜の性質を調べることにしました。たまたま、現在は野菜の端境期^{はなはだ}のため、圃場についての多くの情報を得られないにしても、土壌については、径1cm、長さ1.5m程の支柱が軽々と全部貫入するほどに柔らかい土であること、そのにおいは昔なつかしい健康な香りがすることが分りました。野菜についてはホーレンソーの摘み残しがあり、それを食してみると、苦みやえぐみがなくほのかな甘みさえ感じられました。

その後、アンケート調査を行いました。次回として収穫期の圃場での実体験を行うことが不可欠なことが分りました。



圃場



ホーレンソー

平成24年2月25日 環パ広報部記

